

「第2回若ツナフェスタ in 久比」を開催しました

2023年8月27日（日）10:00-16:30、呉市豊町久比（大崎下島）で、「若ツナフェスタ」を開催しました。

今回の参加者は、今年度の「若者×ツナグバ」で支援している、建築を専門とした院生や学部生で構成する「島会議」と社会人を中心とした「自然でトトノウ会」の2団体に加え、地元住民の方や地域の活性化のために若者を受け入れ支援している一般社団法人まめなの関係者、そして私たちマツダ財団員の総勢約40名。島会議が活動している久比にある、まめなの拠点の一つの古民家で開催しました。



会場となった久比は、海あり山あり風光明媚な自然豊かなところで、ミカンやレモン農家を営んでおられる家庭が多いそうですが、高齢化率が高く、町民450人の内70%が高齢者。島内に小学校があるものの中学校は隣の島へ、高校は本土にしかなく中学校を卒業したらみんな一旦島を出るそうで、後継者率も低く、空き家もどんどん増えています。

その空き家の一つを譲り受け、島会議のメンバーは自分たちの建築技術や知識を活かしたトライアルとしての古民家再生と地域住民との交流を通して町の活性化に寄与する活動を行っています。

一方の自然でトトノウ会は、里山や里海といった自然を利活用した活動を通して、人々の居場所やつながり、生きがいの創出に寄与することを目的とし、デジタル疲れを起こしている人達に、焚き火を通してリアルでつながれる場を提供する活動を行っています。今回の活動も、「みんな携帯電話から離れて今日一日過ごしましょう！」との呼びかけがありました。

この2団体以外にも当日は、まめなにインターンで来ている学生、カナダからの一時帰国時に千葉から来て参加している学生、高校を出て進路を検討するために活動している若

者、昨年若ツナに参加し、たまたま卒論の調査でまめなに来ていた学生、沖縄からまめなを見学に来た学生など、多士済々が集まってきて若ツナ団体の若者と一緒に活動しました。

10:00 に集合し、まずは自己紹介。コアメンバーはこれまでオンライン交流会で会っていましたが、大半のメンバーが、初めて会うため少々ぎこちなさも残る中、午後の本番に向け、全員で準備スタート。コアメンバーリードの下、あっという間に打ち解け、皆さん自ら進んで協力し合って役割をこなしていました。

計画していたコンテンツは、自然でトトノウ会による「サウナと水風呂」「焚火を使った焼きマシュマロやソーセージ焼き」、島会議による「久比散策」「うどん汁調理」「土壁の施工方法である版築作業体験」といった盛沢山の5つで、各々が好きなものに参加し交流するというもの。

お昼には塩とソース2種類の焼きそばを島会議のメンバーが準備してくれ、途中からの参加者も迎え、自然と車座になって食事しながら再度自己紹介を行い、メンバー同士の距離をぐっと縮めることができました。



13:30 頃、島会議のメンバーにより名付けられた「神7（かみセブン）」と言われる 91 歳を筆頭に平均年齢 80 歳代のご婦人方 7 名と「うどん汁保存会」の会長さんが来られ、うどん汁の作り方をご指導くださり、一緒に作りました。「うどん汁」は、久比の郷土料理で昔から冠婚葬祭の時に近隣で具材を持ち寄り作られ、ふるまわれてきたとのこと。今では、高齢化と人口減により郷土料理の継承も難しく保存会が立ち上がったそうです。うどん汁に加えて、神7のご婦人方が採れたての「いとなんきん」（金糸瓜）と胡瓜で酢の物を作ってふるまってくださいました。どちらも優しい味で、次世代に残していきたい料理だとみんなで話しました。



うどん汁作りと並行して、サウナや焚火を囲んでの交流が進められました。地域の課題解決に取り組む彼らは、それぞれの悩みや成功事例などについて意見交換をしていました。



学生、社会人そして地域の方々は、今回の活動を通して、それぞれの考え方や取り組み姿勢にお互いが刺激を受け合う一日となりました。

マツダ財団はこれからも、若者同士を繋ぐ、若者と地域を繋ぐ、そして若者が関与する地域の活性化につながる取り組みを支援してまいります。 (本郷)